

特別講演・共通論題（第96回証券経済学会全国大会）

コーポレート・ガバナンス改革の目的と成果

特別講演1 森本 学（日本証券経済研究所）

特別講演2 宮島 英昭（早稲田大学商学学術院）

パネリスト 伊藤 彰敏（南山大学経営学部）

パネリスト 坂東 洋行（名古屋学院大学法学部）

問題提起 川本 真哉（南山大学経済学部）

司会 佐賀 卓雄（日本証券経済研究所）

安倍政権が成長戦略の重点項目と位置付けたこともあり、「コーポレート・ガバナンス」改革は企業経営者にとって喫緊の課題となっている。これまで安定株主や長期雇用など、ステークホルダーとの長期的な関係を築いてきた日本企業のコーポレート・ガバナンスは、現在、外国人投資家の台頭やM&A、あるいは社外取締役導入の気運などに象徴されるように、大きな挑戦にさらされている。

そもそも日本企業のコーポレート・ガバナンスの従来的特徴はいかなるもので、それは日本企業の成長にどのように関わってきたのであろうか。なぜ、変化が求められているのか。さらに、アベノミクス期以降のコーポレート・ガバナンスの改革（特にスチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コードの2つのコード）の内容・目的・成果はどのようなものなのであろうか。

本講演・共通論題（パネル）では、経済学者、政策担当者、経営学者、法学者等、本分野における第一線で活躍する専門家を招聘し、体系的にコーポレート・ガバナンス改革の意図と成果に関する理解を深めることを目的とする。

まず、第1特別講演として、森本学氏（日本証券経済研究所理事長）をお招きして、「**コーポレートガバナンス改革の政策的意図と導入の経緯**」というテーマのもと、ガバナンス改革をリードしてきた政策担当者の視点から、①2つのコード（スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コード）の導入の背景と経緯、②政策としてのコーポレートガバナンス改革の現在位置と将来について講演いただく。ついで、第2特別講演として、宮島英昭氏（早稲田大学商学学術院教授）より、経済学者の観点からコーポレート・ガバナンス改革の動機や成果についてのご報告をしていただく（「**企業統治改革の進展とその経済的帰結：ハイブリッドな構造のファインチューニングに向けて**」）。具体的には、2つのコード制定以降の、取締役会・報酬・GPIFの改革、政策保有株式の解消動向、アクティビズムの多様化、ESG活動の方向性、日本の企業統治改革の今後など、多角的な視点から日本のコーポレート・ガバナンス改革の過去、現在、未来についてご解説いただく。

その後、上記2つの講演内容を踏まえ、特別講演者2名に加え、伊藤彰敏氏（南山大学経

営学部教授)、坂東洋行氏(名古屋学院大学法学部)から、コーポレート・ファイナンス研究者、会社法学者の立場から、日本企業のコーポレート・ガバナンス改革のあり方についてのコメント、インプリケーションを提示いただき、4名によるパネルディスカッションに移っていく。

以上のような、特別講演、パネルディスカッションを通じて、日本企業のコーポレート・ガバナンス改革の動機、経緯、成果を把握するだけにとどまらず、今後の日本のガバナンス・システムのあり方に向け、その課題や将来性を一望することが可能となろう。

以上